

令和7年度

岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

令和8年3月

岐阜女子大学・大学院

令和7年度 岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

発行日：令和8年3月

発行：岐阜女子大学

(岐阜県岐阜市太郎丸80番地)

印刷：有限会社 青山印刷

目 次

1. 外部評価委員名簿	1
2. 外部評価委員会次第	2
3. 外部評価委員会報告内容	3
(1) 本学の教育課程および学生の活躍について	5
(2) 本学の今後の方向性について	10
(3) メタバースおよびドローン事業の実績と今後の課題	11
4. 外部評価委員会議事要録	13
5. 3 ポリシー（令和7年度）	20

1. 外部評価委員名簿

岐阜女子大学・大学院 外部評価委員会

委員所属・職名	委員氏名 (50音順・敬称略)	担当
清水建設株式会社名古屋支店 副支店長	小川 哲也	建築デザイン (住居)
島田樟誠高等学校 校長	小関 雅司	生活・教育
公益財団法人スポーツ安全協会 会長 元文部科学省高等教育局長	布村 幸彦	全体
福富医院 院長	福富 悌	健康栄養
岐阜市教育委員会 教育長	水川 和彦	デジタル

2. 外部評価委員会次第

日 時：令和8年2月14日（土）

13：30～15：00

場 所：岐阜グランドホテル

岐阜県岐阜市長良 648 番地

Tel：058-233-1111(代表)

[次第1]	あいさつ (高口努 学長・杉山博文 理事長)	13：30 ～ 13：33
[次第2]	本学の教育課程および今後の方向性について (臼井宗一 学生部長・高口努 学長)	13：33 ～ 13：43
[次第3]	メタバースおよびドローン事業の実績と今後の課題 (横山隆光 文化創造学部長・倉坪弘一 事務局長)	13：43 ～ 13：48
評価委員講評		13：48 ～ 14：55

司会：学長補佐（瀬戸敦子・伊佐保香）

3. 外部評価委員会報告内容

(1) 本学の教育課程および学生の活躍について

学生部長 白井宗一

○本学の教育課程について

本学の現在の教育課程の枠組みは、平成21年度から23年度にかけ文部科学省の採択を受けた「学生支援プログラム」・「社会ニーズに対応した高い就職率・定着率を目指す教育」において作成したものがベースになっています。それを基礎に、毎年、内容の改善を図りながら、学生の支援に取り組んでいます。具体的には、入学前支援、入学後の初年次教育、専門基礎・専門教育、早い段階からのキャリア支援教育です。それぞれに独自のテキストを作成しています。

まず、早期入学を決めた学生向けに「入学前学習支援テキスト」を配布しています。課題の提出を受け、添削して返却するなど、多様な学習背景を持つ学生がスムーズに大学の学修へ移行できるよう配慮しています。課題の提出率はほぼ100%です。

入学後においては、初年次教育として倫理、マナーなど人間性の涵養、グループ活動を通じたコミュニケーション能力の育成、データ処理や統計などについて、「自己探求」や「自己創造」等々の授業科目を設け教育に努めています。

専門基礎教育については、それぞれの学科・専攻が専門基礎テキストを作成し、一人ひとりの学修力に応じて予習、復習などができるよう配慮をしています。2～4年次の専門教育においては、それぞれの学科専攻において、「資格取得」を目標として掲げております。また単に資格を取得とするというだけでなく、真に実践力のある職業人になるために、臨地実習、インターンシップなどにも力を入れています。

キャリア支援教育については、2年生から本格的に行っております。2年後期には、就活準備スケジュールの説明、仕事の意味など就活に対する意識づけを行っています。これらの活動の結果として、昨年度の卒業生については、99.5%と高い就職率を確保しています。なお、就職した学生のうち86.9%は出身地へもどり就職しています。

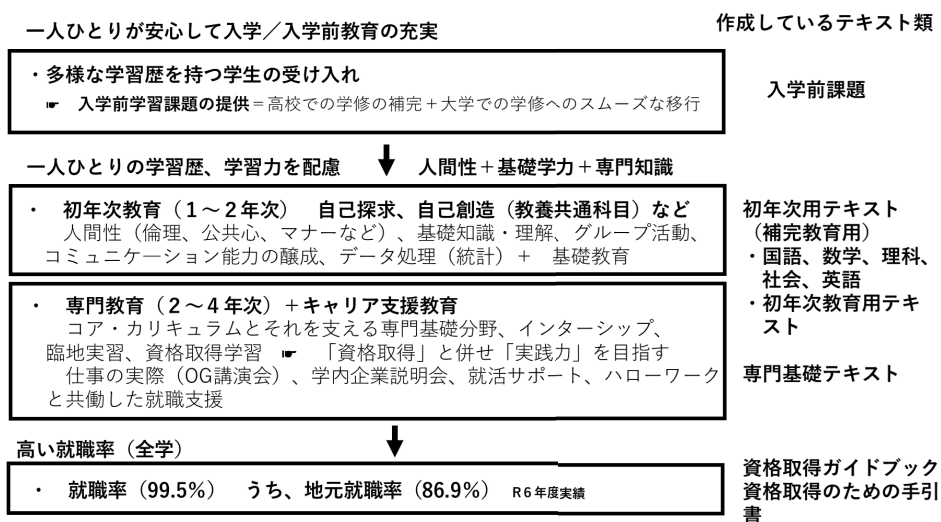


図1 本学の教育課程の概要

○ 学生の活躍と確かな成長の実感について

令和7年度の学生の活躍の状況と活動を通じて学生自身が「確かな成長」を実感していることについて書道専修を例にご紹介します。

令和7年度日本美術展覧会（以下、「日展」という）において書道専修の学生1名（4年生）が入選しました。入選作品は図2のとおりです。日展への入選は、入選した学生一人がとびぬけて優秀で、しかもその学生一人の努力の結果ではありません。書道専修に所属する学生全員の努力を忘れることができません。

書の世界は階層構造になっています。「全日本高校・大学書道展」からだんだんと上の書道展があり、最後に「日展」という構造です。書道専修の学生たちは一年次からこれらの書道展を目標に練習に励んでいるわけです。

従って、日展に入選できなかった学生も、学年が上がるごとに、より上位の展覧会で賞を獲得するようになります。図3に学年ごとの賞の獲得状況を整理しました。逆三角形の図ができます。学生達は日々の練習によって実力をつけている様子がうかがえます。

図4は、こうした活動や成果を通じ、書道専修の学生たちがどのように成長を実感しているかの調査結果です。文部科学省が実施する令和7年度全国学生調査の結果です。この調査の中に、「大学の学びによって成長を実感しているか」という調査項目があります。書道専修の学生たちの結果は、「よく成長を実感している」が59%、「ある程度実感している」が23%でした。それぞれに得点を割り振り、加重平均すると3.41になります。満点は4点です。昨年度のこの項目の全国平均は3.15です。全国平均を0.26ポイントも上回っています。書道専修の学生たちは、目標を見据えた努力の結果、自らの成長を強く実感していることが分かります。

これは、書道専修だけの話ではありません。

各学科専攻の学生は、「各種コンテストへの挑戦」、「国家資格を目指す」、あるいは「集団活動」などを通じて学んでいます。

また、前述しましたように単に資格を修得するということにとどまらず、実践力がある資格者を目指すため、インターンシップ、臨地実習の充実等、体験総量のアップに力を入れています。

家政学部生活科学専攻は家庭科教員を目指すとともに、衣服制作プロジェクトを通じてファッションショーに挑んでいます。建築デザイン専攻は二級建築士、宅地建物取引士、一級建築施工管理技士補などの資格を目指すとともに、山口市、各務原市などと協働して交流拠点づくりや市営住宅のリノベーションに取り組んでいます。健康栄養学科は管理栄養士資格を目指しているほか、製菓衛生士やフードスペシャリストなどの資格取得に励んでいます。

また、文化創造学部観光専修では国内旅行業務取扱主任者、初等教育学専攻では保育士や学校教員を目指すとともに、ミュージカル公演を行い集団活動を通じた体験をしています。デジタルアーカイブ専攻では、図書館司書、学校司書、博物館学芸員、デジタルアーキビスト、上級情報処理士などの資格を目指し勉学に励んでいます。デジタルアーカイブ専攻の学生を主要メンバーとするメタバースクラブは「輝け日本の大学生選手権」で優勝賞を受賞しました。

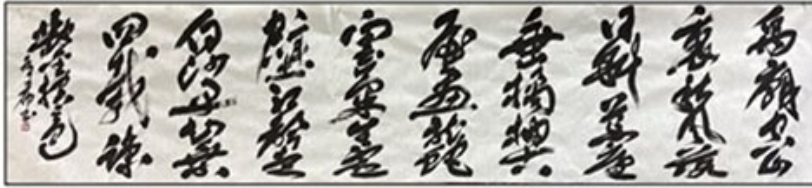


図2 日展入選作品 「兎廟」(中国の詩人・杜甫)

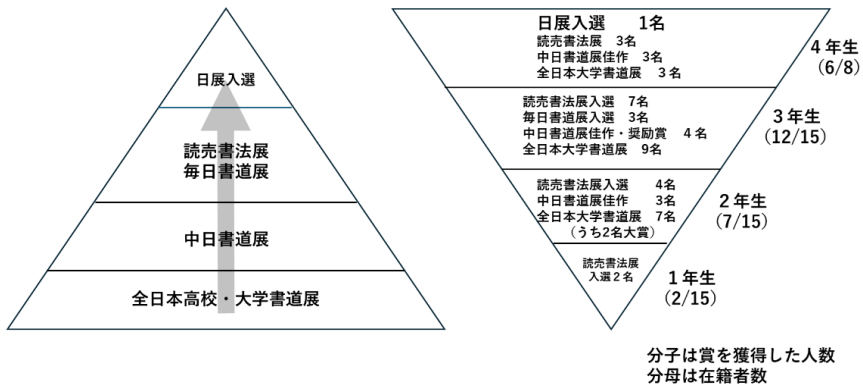


図3 書道の世界の階層構造と書道専修の学生の入選等の状況

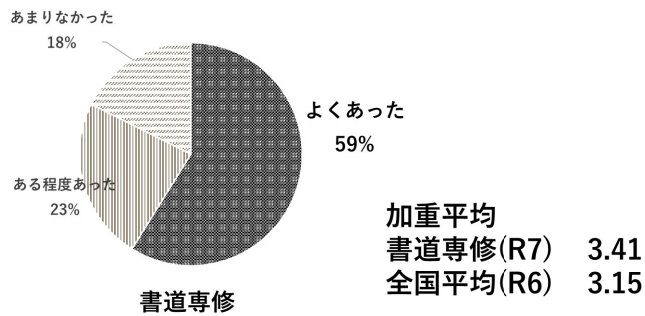


図4 「大学の学びによって成長を実感しているか」
(令和7年度全国学生調査(文部科学省)の結果)

表 1 地域貢献活動（R7 年度）

地域貢献	岐阜県	県営住宅子育て世帯向け改修事業	建築デザイン専攻
	各務原市	各務原市市営住宅DIYリノベーション事業	建築デザイン専攻
	(株)美濃にわか茶屋	地域食材を活かしたコラボレーション事業	健康栄養学科
	山県市	子育てイベント	健康栄養学科
	飛騨高山大学連携センター	飛騨高山学会	書道専修
	岐阜市	駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション	書道専修
包括協定	下呂市	地域社会の発展並びに人材育成に寄与する	文化創造学部
	北方町		文化創造学部
	岐阜市		文化創造学部
	白川村		家政学部
	山県市		全学
企業	(株)エスト	商品企画と素材を無駄にしない衣服制作プロジェクト	生活科学専攻

最後に、本学の地域貢献の現状です。地域貢献は大学の使命の一つです。同時に、学生の多様な学びの場としても大切です。地域貢献への取り組みの概要を表 1 に示します。

建築デザイン専攻は、岐阜県や各務原市の県営、市営住宅のリノベーション事業に協力しています。生活科学専攻は民間企業と協力し、商品企画あるいは素材を無駄にしない衣服の企画等を行っています。健康栄養学科では、山県市、美濃市（(株)美濃にわか茶屋）と協力し、食を通じた地域おこしに協力しています。文化創造学部書道専修では、岐阜駅周辺活性化実行委員会に協力し、のぼり旗の制作を行っています。

また、文化創造学部は下呂市、北方町、岐阜市と、家政学部は白川村とそれぞれ包括連携協定を締結しています。山県市とは全学が包括連携協定を結び地域おこしに貢献しています。

これらは、教員の貢献だけではなく、学生が積極的にかかわり地域貢献活動の中でさまざまな体験をしています。

以上が本学の教育課程の概要および学生の活躍でございます。

(2) 本学の今後の方向性について

学長 高口 努

岐阜女子大学の今後の取り組みに関する報告として、一昨年から検討してきた新学科設置の検討状況についてご報告させていただきます。

● 新学科設置の検討状況

令和6年、文部科学省の事業を受け、本学に新たな「デジタルフロンティア学科」「食農デザイン学科」「建築デザイン創造学科」の3つの理系学科を創設することを目指し検討してまいりました。新学科設置準備委員会という組織を設け計20回、それ以外の細かい委員会の機会も含めて20回以上にわたり検討を進めて参りました。

昨年の外部評価委員会の時には、県内高校生に対するアンケート調査を実施している最中で、令和7年10月に2度目の県内アンケート調査を行ったところです。第2回目の調査では、理学・工学・建築・情報と全体的には高い数字でしたが、女子に限ってみると、7.8%（360名）と少ない結果でした。また、食農デザイン学科は農学分野として検討してきましたが、農学の分野は3.3%とかなり少ない数字でした。

新学科カリキュラム及び教員についても検討し、デジタルフロンティア学科では3名、食農10名、建築デザインでは8名という最低でもこれだけの新しい教員が必要になるという数字結果が出てまいりました。

その結果、3学科の入学定員から新規採用教員を賄うだけの収入の確保が困難であるということ、また、かなりの設備投資が必要であるという結果に至りました。

これら多額の費用がかかるということで、これ以上新学科設置の検討を進めるということが困難な状況になってきたところでございます。

(3) メタバースおよびドローン事業の実績と今後の課題

AI・メタバースで描く地域未来モデル

岐阜女子大学メタバースプロジェクトの今後の展開

文化創造学部長 横山 隆光

観光・教育・防災・行政を横断するデジタル基盤を整備し、小中学生・大学生・行政・企業・住民が協働する地域共創エコシステムを形成する。生成 AI・メタバース・フィジカル AI を統合して地域課題の解決と価値創造および持続可能なデジタルモデルを構築する。2023～2025 年度の「ぎふ地域 DX 推進補助金」による研究成果を基盤として発展させる。

1. 観光 DX の展開

下呂市との産官学連携で構築した「AI 観光情報プラットフォーム」を基盤に、観光客の感想データや学生の現地調査データを教師データとして活用した 24 時間多言語音声応答型の観光 AI を運用する。観光案内所や宿泊施設の問い合わせ負担を軽減して業務効率化と観光客満足度向上を同時に実現しつつ、ロボット案内や混雑状況のリアルタイム提示などを可能にするフィジカル AI との連携を進め、観光客の行動データ分析・地域マーケティングへの応用を含む 2 年間の発展計画のもとで観光 DX モデルの確立を目指す。

2. 地域 DX の展開

岐阜県の山間部の情報格差と超高齢化の課題に対し、小中学生を地域のデジタル担い手として育成しながら、高齢者への ICT 支援や行政情報のデジタル化、地域資源の発掘を小中学生と大学生が協働で進める。住民の声を AI が収集・分析して行政サービス改善や観光振興に反映するデジタル共創基盤を構築し、RAG 技術を用いた AI チャットボットによる住民参加型の情報循環を実現する。「輝け！日本の大学生選手権」優秀賞（賞金 250 万円）を受賞した成果を踏まえ、3 年間のロードマップのもとで地域モデルの自走化を目指す。

3. 防災 DX の展開

長谷虎紡績㈱との共同研究（寄付金 50 万円）で培った防災メタバース技術を基盤に、工場火災の 3D 再現や初期消火体験、避難行動シミュレーションなどの体験型防災学習を拡充し、過去の災害事例や住民の体験談を学習データとして蓄積して状況に応じた防災アドバイスを提供する。RAG 型防災 AI を導入するとともに、多言語対応によって外国人住民や海外利用者にも開かれた防災教育基盤を構築し、2027 年の完成を目標に学校教育・企業研修・地域啓発に活用できる持続的な防災メタバースを整備する。

4. 教育 DX の展開

これまで制作してきた下呂温泉や歴史文化施設、沖縄のガラス工房や城、関ヶ原古戦場、梅原断層などの教育メタバースをさらに拡充しつつ、岐阜県および沖縄県の小中学校と連携して児童生徒が主体的に学べるデジタル教材を共同開発する。AI による学習支援やモーションキャプチャーを用いた体験型学習、フィジカル AI との連動を統合した身体感覚を伴う学習環境を実現し、地域文化・歴史・防災を総合的に学べる地域に根差したメタバースを構築して学校教育の高度化に貢献するとともに、学会などで報告する。

広がるドローンの活用範囲 —国家資格取得者の拡大を目指して—

岐阜女子大学ドローンカレッジの今後の展開

事務局長 倉坪弘一

本学は、平成 30 年に文化創造学科デジタルアーカイブ専攻を、翌 31 年に文化創造学研究科デジタルアーカイブ専攻を設置した。その流れにはデジタルアーカイブ技術の一つとして「ドローン」の手法・技術を活用した業務が多用化し、拡大することを見込み、本学において「岐阜女子大学ドローンカレッジ」を令和 5 年に運用を開始した。

しかし、最近の 2 年間の実績は学生 10 名と職員 1 名のみである。

この状況を打破するため、以下の施策を講じ、岐阜女子大学ドローンカレッジの本来の目的を達成するとともに、収支改善をはかる。

1. ドローンクラブの活動の活性化

- ①全学部を対象とした科目「情報処理Ⅲ」—無人航空機演習—の開講学年を 1 年～4 年として、いつでも履修できる体制とする。⇒ 経験者を養成(指導)
- ②ドローンクラブ員がいつでも機体に触れられる環境を屋内外の大学施設を活用し構築する。⇒ 経験者を養成(自習)
- ③国が行う学科試験の支援をさらに充実し、修了試験受講の条件となる学科試験の早期合格を目指す。⇒ 修了試験の充実
- ④国家資格取得学生の練習の場の提供し、学生同士の指導支援を検討する。⇒ 技術の継続・継承

2. 岐阜女子大学ドローンカレッジの運営の効率化

- ①民間支援団体 J U I D A から離脱し、経費の軽減を図る。⇒ 自立、支出抑制
- ②講師による履修指導により、国家資格取得を目指す学生を確保する。⇒ 収入増
- ③講習指導者、修了審査員との連携強化により修了試験の実施回数を充実する。⇒ 収入増・効率的運用
- ④他大学学生等の勧誘を目指す。⇒ 収入増・広報

3. 広報による新入生確保等

- ①高等学校への出前授業を拡大する。⇒ 学生確保
- ②学内イベントの内容を拡充する。⇒ 学生確保
- ③「岐阜女子大学ドローンカレッジ」の見える化を図り、民間からの受講生の受け入れを検討する。⇒ 収入増・広報

4. 就職先の拡大

- ①キャリア支援センターと連携し、就職先の拡大を図る。⇒ 学生支援・広報
- ②企業からの岐阜女子大学ドローンカレッジ受講者の受け入れを検討する。⇒ 就職支援・収入増

4. 外部評価委員会議事要録

日 時：令和8年2月14日（土） 13時30分から15時00分

場 所：岐阜グランドホテル 東館1階 ルミエール

参加者：

（1）外部評価委員（50音順）

- ・小川 哲也氏（清水建設株式会社名古屋支店副支店長）
- ・小関 雅司氏（島田樟誠高等学校 校長）
- ・布村 幸彦氏（公益財団法人スポーツ安全協会会長 元文部科学省高等教育局長）
- ・福富 悌 氏（福富医院 院長）
- ・水川 和彦氏（岐阜市教育委員会教育長）

（小関委員：レポート提出）

（2）学内関係者

杉山理事長、高口学長、白井学生部長、横山文化創造学部長兼文化創造学専攻主任、藤木家政学部長兼生活科学専攻主任、黒見入試室長兼大学認証評価担当部長、久世遠隔・通信教育部長、藤田健康栄養学科長、森初等教育学専攻主任、谷デジタルアーカイブ専攻主任、倉坪事務局長、久保田役員秘書、川島企画・広報課長、伊佐学長補佐、瀬戸学長補佐

司会・進行

学長補佐（瀬戸、伊佐）が司会・進行。委員会に先立ち外部評価委員の紹介を行った。

1 開会のあいさつ

◎ 高口学長から、大学を巡る状況は、少子化、社会からの要請の高まりによって、非常に厳しい状況になっている。このような状況を踏まえ、本学では従来、複数資格、免許の取得やメタバース、ドローンといったデジタル技術の修得、空き家リノベーションといったものに力を入れ取り組んできているとの説明があった。一昨年から検討を進めてきた新学科設置についても課題がみえてきており、本日は評価委員の先生方からさまざまな視点でご意見・ご指摘をお願いしたいというあいさつがあった。

◎ 杉山理事長から、昨日参加した進学相談会で高校生自身が自分には何が向いていて、何が向いていないのかが分からない学生が多くなってきていると感じた。一方、本学学生が就職する企業や本県で最も伸びている企業らの首脳陣から聞いている「求める人材像」には大学が目指す人材育成と現場が欲しがっている人材の違いが見えてきた。この違いをこれからの大学運営の課題として考え、徐々に社会により良い人材を提供できる大学として生き残っていきたいと考えているとの説明があり、忌憚のないご意見をお願いしたいとのあいさつがあった。

2 本学の教育課程について

◎ 白井学生部長から、①教育課程の構成概念、②令和7年度の活動概要、③令和7年度全国学生調査の結果、④地域貢献の現状について報告、説明があった。

①教育課程の構成概念

・本学独自に作成しているのは、1) 入学前学習課題テキスト、2) 初年次用テキスト（補完教育用）、3) 専門基礎テキスト、4) 資格取得ガイドブック、5) 資格取得のための手引書であり、特に1「入学前学習課題テキスト」については、大学入学前から学習を始めることによって、スムーズに大学の学修へ移行できるよう配慮している。在学中には、単に資格取得だけを目的とするのではなく、真に実践力のある職業人として活躍できるように臨地実習やインターンシップに力を入れ、就職を見据えたスケジュールを立てている。これらの成果として、昨年度卒業生の就職率は99.5%、そのうち86.9%が出身地での就職となっている。

②令和7年度の活動概要

○書道専修の例

・令和7年度「日本美術展覧会」4年生1名入選
日展入選は、書の世界の登竜門を意味するが、入選した学生だけの努力の結果ではない。書道専修では全日本高校・大学書道展をはじめとするさまざまな展覧会があり、学生たちは毎日夜遅くまで練習を重ねている。1年生から4年生までが日々の練習によって実力を付け、その成果が実感できる育成が行われている。

③令和7年度全国学生調査（文部科学省実施）

・2、4年生を対象にした調査の結果（例：書道専修）

問「大学の学びによって成長を実感しているか」

よく成長を実感している 59%

ある程度成長を実感した 23%

評価点を加重平均すると、書道専修 3.41 点（最高点 4 点）となるため、かなり高い得点であることがわかる。

書道専修を例にあげたが、他の学科専攻の学生らも各種コンテストや国家資格を目指し、集団活動を行う中で学びを深めている。

④地域貢献の現状

大学の使命の一つであり、学生の多様な学びの場として大切であり、積極的に取り組んでいる。

3 本学の今後の方向性について

- ◎ 高口学長から、新学科設置については、県内高校生へのアンケート調査や新学科設置準備委員会を立ち上げ検討を重ねてきたが、「デジタルフロンティア学科」、「食農デザイン学科」、「建築デザイン創造学科」3つの新学科の設置①学生の確保、②関連設備充実、③人材の確保などいずれも困難な状況との報告があった。

4 メタバースおよびドローン事業の実績と今後の課題

- ◎ メタバース事業について、横山文化創造学部長から、①ぎふ地域 DX 推進助成金による研究成果、②地域 DX への展開、③防災 DX への展開、④教育 DX について報告、説明があった。

①ぎふ地域 DX 推進助成金による研究成果

観光 DX 下呂市との提携協定を結んでおり、産官学連携で「AI 観光情報プラットフォーム」をつくり、多言語化を図っている。

②地域 DX への展開

「輝け！日本の大学生選手権」に出場し、優秀賞を受賞した。3年間のロードマップのもと、地域モデルの自走化を目指す。

③企業との共同研究

防災 DX の展開として、現在 4 社と共同研究をおこなっている。長谷虎紡績株式会社との共同研究では、工場火災が起こってしまった場合、地域を含めどのような対応をするかということ、素早く情報共有できるように多言語対応モデルを構築している。

④教育 DX

小中高等学校で利用いただける教育コンテンツの開発の一環として、2月16日よりタイ王国アサンプシオン大学を訪れ、これまで行ってきたメタバース・

プロジェクトの交流会を行う予定。また、3月1日には公表会を実施し、多くの企業や小中学校の皆様に来ていただく計画を立てている。

- ◎ ドローン事業について、倉坪事務局長から岐阜女子大学ドローンカレッジ導入目的及び現状状況では当初の導入の目的を果たしていないため、以下の観点から状況を検証し、受講する学生を拡大し本学の特徴的資格として認識されるように努める。この状況を広報し学生確保策としての改善を図りたいとの説明があった。

- ①ドローンクラブの活性化
- ②運営の効率化
- ③広報による新入生確保等
- ④就職先の拡大

5 外部評価委員の講評

主な内容は以下のとおりであった。

- ◎布村 幸彦氏（公益財団法人スポーツ安全協会会長 元文部科学省高等教育局長）
- ・入学前から細やかに一人一人の学力に応じた指導を実施し、就職率を100%に近い数字を出している。書道専修は専門適性が非常に高いかたちで学生を育てており、また地域貢献活動についてもきめ細やかに実施している。
 - ・「大学・高専機能強化支援事業」については、新しい学科を目指して議論してきた過程を既存の学科の中にどのように活かすか、岐阜女子大学の強みをどのように活かすのか、ということは今後新しい取り組みにつなげていただきたい。
 - ・地方の小規模大学は、定員確保というのが大きな問題ではあるが、小規模なるが故に、学生と教職員が一体となって大学を作り、地域からお預かりした学生をしっかりと育てて地域にお返りする地学一体の学びが必要である。さらに、産業界、行政とも連携し、地域との結びつきを強くしていくことが、大学の強みをさらに明確にさせることにつながると思う。
 - ・日本の社会が理系人材不足になるということで、これから普通科高校の改革が行われる。普通科高校でも理数系要素を強くした学生が多くなってくると予想されるため、このような高校生の受け皿となるような、大学改革に取り組まれるといいのではないかと。

◎福富 悌氏（福富医院 院長）

- ・健康栄養学科において、管理栄養士の志望者が若干減っているようだが、食べ物が大事だということをもっと高校生に伝えていく必要がある。まだどの年齢層に対しても理解できるように、分かりやすく伝えるということが大事だと思う。
- ・管理栄養士としてエビデンスのある正しい知識を広めていくことが大切で、世の中の人でもそれを求めている。高校生にも世の中で必要とされている知識を学んでいるということを理解していただくことで、ますます大学の価値を高めることができるのではないかと思う。

◎小川 哲也氏（清水建設株式会社 名古屋支店副支店長）

- ・改正労働基準法が施行され、労働時間の上限が規制されるなか、建築系の人材ニーズは非常に高まっている。女性社員の活躍という点では、女性施工管理者が建築現場の所長となる実績もあり、今後も女性の施工管理者の活躍は不可欠な状況である。
- ・昨今はフロントローディングに力を入れている。設計段階の初期に詳細な属性を持つ BIM のモデルを作成し、設備や構造の干渉のチェックなどをバーチャルで完結させる DX 化を積極的に推進している。BIM は図面業務においては欠かせないものであり、BIM の研修も行っている。建築の知識を活用しながら専門業者や現場との打ち合わせの上、オペレーターに指示ができ、BIM が持つ数量や施工時期などの属性情報を活用できるような人材の育成強化を図っている。
- ・DX の分野においても点群データを建築の分野で活用している。3D スキャナーを用いた建物内部を撮影し、活用することも行っている。このような分野に興味を持ち、積極的に学ぶ、吸収する人材を求めている。
- ・建築に限らず、セキュリティに関する意識も重要で、データのアクセス管理や情報セキュリティのポリシー遵守など、基本的なセキュリティ対策を実施する能力が必要となる。
- ・岐阜女子大学では、特別プロジェクト実習において、現地調査から企画設計、施工まで一貫したリノベーションの取り組みをされている。最終的に完成形として残ることがものづくりの醍醐味であるので、実習を通してその魅力を体験してもらえることを期待している。

◎小関 雅司氏（島田樟誠高等学校 校長）

- ・入学から卒業まで一人ひとりの学生に応じたきめ細かな指導を行い、個々の力を着実に伸ばして社会に送り出している「非常に面倒見の良い大学」という印象である。「メタバース・プロジェクト」や「ドローンカレッジ」は先進的に取り組んできた分野であり、地域や行政、学校などと協働に資する取り組みとして、今後の展開に期待する。
- ・卒業時アンケートより、ほとんどの項目で肯定的回答が 90%以上であった。今後も継続し、教育内容や教育方法の不断の改善に生かしていただきたい。
- ・＜生活科学専攻＞高難度の資格取得やコンテストへの挑戦は、学生の学修意欲や目的意識の向上と進路実現の双方に資する取り組みであるので、今後も力を入れてご指導いただきたい。
- ・＜生活科学専攻＞教育課程に被服実習科目が多いが、家庭科は衣・食・住、消費・経済、家族・福祉、ジェンダー、SDGs、ウェルビーイングなどを横断する科目であるため、他分野の教育を充実させてバランスをとっていったらどうか。
- ・＜生活科学専攻＞卒業後の活躍分野に具体性が欠けるので、明示すると受験生が理解しやすいのではないかと、また教員志望以外の学生に対する新たな進路先開拓も必要ではないかと。
- ・＜初等教育学専攻＞少人数教育による丁寧な指導体制は、学生の基礎的な教育力・人間性の育成に大きく寄与している。また1年次から保育や学校現場での体験学習を段階的に実施していることは保育者や教員として適性を見極めるための重要な機会であるため、今後も継続していただきたい。
- ・＜初等教育学専攻＞「教育 DX への対応」は、現在の学校教育では必須のことであり、岐阜女子大学が強みとしている分野であるので今後も ICT に強い教員を育成していただきたい。
- ・＜初等教育学専攻＞SNS 社会にあっても教員の話し方や対話力の質が、子どもの人格形成に影響することも踏まえ、指導技能向上を一層推進していただきたい。

◎水川 和彦氏（岐阜市教育委員会 教育長）

- ・藍東学園の校舎設計に関し、建築デザイン学科で施設のデザインをしていただき、形にすることができた。また三輪南小学校で租税教室を実施いただいた。このような機会を通じて大学生の姿を小中高生に見せることで大学の魅力を

感じてもらうことが大事ではないか。

- ・中学校の「技術・家庭科」が「情報・技術」という新しい教科に変わる。中学の時から情報を学ぶため、大学の方も一段階高いレベルで学生たちを受け入れる必要が出てくると感じている。
- ・デジタル情報のなかで価値あるデジタル情報を収集・整理できる力や、デジタル社会に与える影響力を見抜ける力、あるいはデジタルを用いて思考のネットワーク形成ができる力などが必要だと思う。
- ・デジタル機器の効果的な活用に強い卒業生というコンセプトがあるとよい。ドローンを用いて運動会の様子を撮影するといったことができると、とても現場の実践力となる。デジタルスキルが高いことはとても重要である。
- ・デジタルに関する法的・倫理的理解が重要で、卒業すれば著作権のことや肖像権のことがしっかり身についている、というのはどのような職場に行っても強みになる。
- ・デジタルを用いた周知の活動が、近年とても影響力を持つことが証明されてきている。デジタルを用いて社会とつながる岐阜女子大学ということで、動画編集が当たり前になるようになると学校現場のみならずとても役に立つと思う。
- ・教育現場においてデジタルが進行しているとはいえ学修支援のマンパワーが不足している。このようなところに大学生の力をお借りして、教育支援のインターンシップなどを行ってもらえると大変ありがたい。このような機会において小中高生が、大学生はどのようなことをしているか知ることができ、大学生の魅力がさらに見えるようになるとよりたくさんの学生が集まるのではないかと思う。

6 閉会のあいさつ

- ◎ 高口学長から、謝辞と皆様から頂いた貴重な講評を基に、全教職員一丸となって社会から求められる大学を目指して努力を継続していきたいとのあいさつがあった。

5. 3 ポリシー

大学	家政学部	文化創造学部 文化創造学科
<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>岐阜女子大学は、建学の精神「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならでは」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人材を育成する。そのため、大学が定める学力及び能力・人間力を身につけ、卒業要件を満たして所定の期間在籍した者に、卒業を認定し、学位を授与する。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>家政学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と家政学に関する高い専門知識や技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この目標を踏まえて編成した本学部の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。</p> <p>1 「女子ならではの」深い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身につける。</p> <p>2 家政学の専門知識と専門技術を修得し、地域社会で有用な資格が取れる力を身につける。</p> <p>3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などについて、豊かな人間力を身につける。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と初等教育・文化事業に関する高い専門知識や技能を身につけ、課題の見出しと解決に取り組む主体性を持って地域社会で活動できる人材を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この教育目標を踏まえて編成した教育課程を修め、卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。</p> <p>1 「女子ならではの」深い教養を育み、生涯にわたって学び続ける力、主体性を持って地域社会で活動できる力を身につける。</p> <p>2 初等教育・文化に関する高い専門的知識と技能を修得し、社会的に認められる資格を取得できる力を身につける。</p> <p>3 相手の立場を思いややる心、ためまらず努力する姿勢、多様な価値観を認める寛容な精神など、地域社会で幅広く活躍できる人間力を身につける。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>岐阜女子大学は、豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力の育成をめざして、多様な授業形態を組合せた教育課程を体系的に編成し、それを実践・評価する。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>
<p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、大学での学びと将来に向けての学びに主体的に取り組む自律性を育むため、学修の基礎となる全学共通教育科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、高い専門性を身につけるため、主要科目と関連する履修科目の到達目標を明確にして体系的に配置する。</p> <p>(3) 学識の実践力を高め、課題の見出しと解決に取り組むため、実習・演習科目を効果的に配置する。</p>	<p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。</p> <p>(3) 実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。</p> <p>(4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒論研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>	<p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、学部での専門的な学修の基礎となる共通科目と各専攻が定める主要科目と関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。</p> <p>(3) 演習科目、学外実習科目等を配置し、課題の見出しと解決に取り組む学生の実践力の育成を図る。</p> <p>(4) 論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒論研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>

<p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 教育目標・教育課程に応じた効果的な教育を推進する。</p> <p>(2) 基礎・専門教育課程では、カリキュラムマップを編成し、学生の主体的な受講と学修を推進する。</p> <p>(3) 学修の効果を高めるため、主体的、協働的、課題の見出し・解決型の実践的学修を取入れる。</p> <p>(4) 本学教育の総仕上げとして、卒業研究を必修とする。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 2年終了時には、進学課程に必要な単位の修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得を評価する。</p> <p>(2) 学修状況を調査し、学修の状態と学修の方法を把握して指導と評価に活用する。</p> <p>(3) 卒業研究と関連学修について総合的な学修を評価し、卒業の適否を判断する。</p>	<p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 家政学部では、健康栄養学、生活科学、住居学の基礎と専門について、家政学的視点から実践的に教育する。</p> <p>(2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習 (PBL) 等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていのかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。</p>	<p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 文化創造学部では、文化創造学、初等教育学、デザイン・アート・デザインを実践的に教育する。</p> <p>(2) 各専攻で、学主力育成のためのカリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 学生参加型授業、問題解決型学習 (PBL) 等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていのかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究の評価は論文発表と口頭発表で行い、その結果と全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。</p>
<p>入学者受入の方針 (アドミSSION・ポリシー)</p> <p>岐阜女子大学は、建学の精神と教育の目標を理解し、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性のある多様な人間力の研鑽に意欲的な人を選抜する。また、高い専門性を身につけ、課題の見出しと解決に取組み地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。</p>	<p>入学者受入の方針 (アドミSSION・ポリシー)</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み卒業後に地域社会での活動をめざしている人の入学を期待する。</p>	<p>入学者受入の方針 (アドミSSION・ポリシー)</p> <p>文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) を踏まえ、次のような女学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学での学修に必要な基礎学力を有している人。 2 知的好奇心にあふれ、向学心のある人。 3 他者の考えを理解し、自分で考えて判断し、自己の意見を表現できる社会的能力を磨きたい人。 4 卒業後は、地域社会での活躍をめざす人。

【大学院】

生活科学研究科	文化創造学研究科
<p>修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と創造性豊かな研究能力や総合的課題処理能力を身に付け、生活や健康の質の向上を追究・提案・実践できる次のような人材の育成を目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、修了要件を満たした者に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 衣食住などの人間生活、あるいは食べ物と健康との関係について幅広い知識を修得し、人間生活の向上や改善、食生活を通じて健康の増進や疾病の予防に寄与できる高度な専門性を身に付ける。 地域社会で主体的な貢献や活動を行うために、自律性、協調性、対話力、倫理的ななどの人間力を身に付ける。 家庭科教員を目指す場合には、教材の研究及び開発を行う力、児童や生徒の教育を実践的に展開し、その分析・評価・改善ができる力を身につける。 <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、衣食住を中心とする人間生活の質の向上を図る生活科学分野と食べ物と健康との関わりを探究する応用栄養学分野について、「健康・安全」、「快適・利便」、「ゆとり・豊かさ」、「自己表現」などの視点から、以下のカリキュラムを体系的に編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> 生活科学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野で構成し、両者に共通する授業内容を研究科の必修科目として配置する。 生活科学分野は、高度な家庭科教材の開発や実践的な食育などの教育・研究科目を配置する。 応用栄養学分野は、管理栄養学の高度な知識と実践力を養成する教育・研究科目を配置する。 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> 生活科学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野を実践的に学修する。 生活科学分野は、高度な専門知識を修めた家庭科教員（高等学校・中学校）の養成を図る。 応用栄養学分野は、EBN（evidence-based-nursing：実証に基づく看護ケア）に関する栄養研究に力を入れて、管理栄養士・栄養教諭専修免許が取得できる力を養成する。 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。 社会人教育を実施するため、土曜日・日曜日に集中講義を開講する。 	<p>修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身につけ、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に学位を授与する。</p> <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学の二つの専攻において、修士認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、多様化する現代の諸課題に対応できる実践力と専門分野における高度な研究力の修得を目指して、体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> 文化創造学専攻・デジタルアーカイブ専攻では、日本文化、英語文化（通信教育課程は除く）、文化創造の3つの分野に共通する授業科目と分野に応じて、それぞれ、書道・国語、英語（通信教育課程は除く）ならびにアーカイブに関する研究科目を配置する。 初等教育学専攻では、幼稚園児及び小学生の育成に関する実践的な教育・研究科目を配置する。 各専攻について、通信教育課程を編成する。 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> 文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学を実践的に学修し、それぞれにおいて、高等学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く）・書道）、中学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く））および小学校教諭専修免許・幼稚園教諭専修免許の取得可能な能力を養成する。 文化創造学研究科は、情報社会が求める上級デジタル・アーキビストの養成を行う。 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。 通信教育課程の学生には、スクーリングを土曜日・日曜日・休日等に実施する。

<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などでの取り組み状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などでの取り組み状況、学内外の研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>
<p>入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、岐阜女子大学の建学の精神と教育方針・目的を理解し、次のような素養と気構えのある学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を備えている人。 2 衣生活、住生活に関する諸問題の解決に意欲を持っている人、又は食べ物と健康との関係について関心を持っている人。 3 地域社会における衣食住に関する諸問題の解決に貢献する志のある人。 4 知的好奇心にあふれ、自主的な研究を行う意欲を持っている人。 	<p>入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような学生を求めらる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有する人。 2 他者の考えを理解し、自分で考え判断し、自己の意見を表現できる人。 3 知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人。 4 文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人。 <p>文化創造学研究科通信教育課程は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、上記に加え、次のような学生を求めらる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 働きながら学ぶ意欲のある人。

生活科学専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活科学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 衣・食・住に関する知識や技能を活用し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を工夫し地域社会で主体的に展開できる力を身につけている。
- 2 家族に関する知識や技能を活用し、円滑な対人関係を築き、人と適切に接する総合的人間力を有している。
- 3 消費生活・環境に関する知識や技術を活用し、生活上の多様な課題に対処できる自律性と協調性・倫理観を身につけている。
- 4 洋裁・和裁の縫う知識・技能を備え、家庭科教員としての的確な実習指導ができる能力を有している。
- 5 これらの資質・能力を多面的に活用し、家庭科教育を通じて社会へ貢献することができる力を身につけている。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

1 教育課程の編成

- (1) 教養教育では、自己確立をめざす基盤教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。
- (2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、家庭科教員資格取得をめざした教育課程を編成する。
- (3) 洋裁・和裁の技術向上のために、被服実習科目を多く配置する。
- (4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と学士論文の作成を必修とする。

2 教育内容・方法

- (1) 日常の生活課題を科学的に分析し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を創造するために実践科目を重視する。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドマップ等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、被服実習・調理実習といった実習面に強い・実践的指導力の高い家庭科教員を養成するため、実習授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）、模擬授業等を実践する。創造的に考え、多様な人々取り組み、主体的に生活の問題解決をはかる人材を育成する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、製作物、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、課題の見出しと解決に取組み、卒業後に家庭科教員やファッション関連産業のスペシャリストとして、地域社会での活躍をめざしている人の入学を期待する。

建築デザイン専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

建築デザイン専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 生活者側の視点に立ち、住む人、使う人が満足できる建築・インテリアの高い専門的知識・技術を修得し、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会で活躍できる力を身につけている。
- 2 建築・インテリアに関する幅広い知識・技術を修得し、地域社会で有用な資格を取得できる力を身につけている。
- 3 地域社会で活躍できるように、建築・インテリアのデザインに必要なコミュニケーション力と社会人として求められる教養や人間性を身につけている。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

建築デザイン専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、学部共通科目、専門科目、発展的科目、卒業研究、実践的教育を体系的に編成して開講する。

1 教育課程の編成

- (1) 初年次（専門基礎）教育では、専門科目の履修に必要な基礎学力を補完するための科目と建築・インテリアをデザインするための基礎科目を配置する。
- (2) 専門教育では、建築スペースデザインコース、インテリア・プロダクトデザインコースの2つを設け、より実践的な課題に対応できる知識・技術を修得する科目を配置し、併せて社会で求められる国家資格等の取得を目指した教育課程を編成する。
- (3) 実践的能力を重視して、専門教育科目のコアとなる設計・作図演習、ICTの活用、プロジェクト実習等を初年次より配置する。
- (4) 課題設定・解決力、企画・計画力、プレゼンテーション力等を身につけるために、卒業研究を必須とする。

2 教育内容・方法

- (1) 実践力を身につけるために、実際の建物等を企画・設計・施工する実習や地域の課題解決型の実習等の実践的教育をおこなう。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、就業力を育成するため、実習を通して課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学びを支援する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言をおこなう。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、課題作品、レポート、テスト、出席率等で評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全履修科目の学修成果について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

建築デザイン専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、住む人、使う人の立場に立ち、環境への配慮や安全かつ快適な建築・インテリアをデザインするための知識・技術を実践的に身につけ、建築・インテリアのスペシャリストとして、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会での活動を目指している人の入学を期待する。

健康栄養学科

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科は、家政学部の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を受け、次の能力を有することを重視し編成した本学科の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 管理栄養士として、地域社会で主体的に活動できる力を身につけている。
- 2 健康と栄養の専門知識と技能を修得し、管理栄養士を始め地域社会で有用な資格を取得できる力を身につけている。
- 3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などを修得し、豊かな人間力を身につけている。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、専門基礎科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

1 教育課程の編成

- (1) 管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を抽出するための基礎科目を配置する。
- (2) 管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を客観的に分析するための科学的思考力を養う専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。
- (3) 科学的根拠に基づいた実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。
- (4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。

2 教育内容・方法

- (1) 健康栄養学科では、栄養学の基礎と専門について、実践的に教育する。
- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の資料や教材を提供し、主体的な自己学修を奨励するとともに、適切な情報の収集・選択をする技能を修得する。

- (3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施する。
- (4) 学修環境を整備し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学びを支援する。
- (5) 各学年各クラスにアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率や学修目標の達成度などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、食べ物と健康に関心を持ち、学修に意欲があり、卒業後に課題の見出しと解決に取り組む地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。

(2026. 3. 14 改定)

初等教育学専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

初等教育学専攻は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し、編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 幼児期から児童期にかけての成長・発達を理解ができ、見通しをもった教育課題を見出し、その解決に導く教育実践の力を身につけている。
- 2 教育人として人間性・社会性に優れ、協働力を発揮し、教育への情熱を有している。
- 3 今日的教育力を、理論と実践との往還により着実に身に付け、社会に貢献していく意欲を抱いている。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、0歳から12歳までの子どもの心身の成長発達を理解し、ICT活用指導力を備えもち、教育の今日的課題解決に邁進する保育士・教員を養成する。特設の「人材育成構想」（理論と実践の往還）に準ずる学修、デジタルによる遠隔学修と対面との最適な組み合わせによる効果的な学び方の体得を視野に入れ、以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) 初等教育学専攻のカリキュラムは、子ども発達専修と学校教育専修で編成している。それぞれ「幼児期の保育・教育」と「小学校の教育」を系統的に学ぶことができる。
- (2) 二つの専修のカリキュラムは、相互に関連する科目を履修し、周辺領域までを学ぶことができる。
- (3) 本学のもつICT活用に関わる教育資財を活かし、活用していく能力・技能を身につけることができる。
- (4) 教育の今日的課題、「対話的な学び」・「深い学び」に導く、理論学修と現場学修の配置を段階を踏まえて据え、教育力の向上と、課題への対応力を高めることができる。
- (5) 特設の二大取り組みを通して、仲間と保育・教育の本質を追究し、コミュニケーションと力を高め、自己省察力を養うことができる。
- (6) オンライン教育と対面教育の効果的な組み込み方を実践的に身につけることができる。

2 教育内容・方法

- (1)理論と実践の往還による学び方を通して 思考力、判断力、表現力を身につける。
- (2)1年次から4年次に体験活動を配置し、教育現場に即した教師力を高める。
- (3)これからを生きる児童生徒に必要とする情報機器を活用する能力や学修をより効果的学ばせていくドローン・メタバース活用技法に至る学修を習得する。
- (4)子ども向けの活動内容をカリキュラムに位置づけ、積極的に社会参画ができ、技能力量も兼ね備えた保育者・教員となる取り組みを行う。
- (5)各学年のアドバイザー教員は、カリキュラムに沿い、学生の学修・生活等にきめ細やかな相談や助言を行って適切な進路に導く指導をしていく。

3 学修成果の評価

- (1)学生の学修成果を、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2)2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と現場での実習に適応できる学習成果を評価し、進級の適否を判断する。
- (3)保育所・教育実習に赴く時は、学業成果以外の進路への意思・意欲からも評価する。
- (4)卒業研究は、論文の口頭発表と論文本体の記述を合わせて評価し、所属教員の総合判断により、単位の認定を行う

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

初等教育学専攻は、本専攻の制定する卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の理解の上で、次のような人を求める。

- 1 子どもとの関わりに好感を抱き、幼児期の子どもの成長・発達に深く関わりたいと考える人
- 2 教師の職に憧れをもち、社会でよりよく生きたいと願い、教育していくことに熱情を持っている人
- 3 伝えあい、力を出し合って仕事をしていき、協働の仕事がしたいと思っている人
- 4 幼児・児童の生活をより楽しくさせたい、向上させたいと思っている人

(2026. 3. 31 改定)

文化創造学専攻 書道専修

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 教育者として「書写・書道」を総括的に理解・修得するとともに、練度の高い技能で多様な作品づくりができ、その文化を継承し発展させることができる。
- 2 岐阜女子大学の建学の精神・教育方針を理解し、書道を通してボランティア活動・国際交流に努め、学修の成果を活かして社会に貢献できる。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、小・中学校の「書写」、高等学校の「芸術科書道」の教員を育成すること、および高度な専門性を以って書道文化を継承し社会に貢献する人材を輩出することをめざし、以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) 基礎・基本を大切に「基本点画」から学び、その後の臨書学習へと展開する。また書道概論・書道史・書論等の科目で「理論面」を補強し、実践的指導力を身につけるため「書写教育」・「書道科教育法」等を開設する。
- (2) 高等学校の「芸術科書道」では授業内容の9割が「臨書」であるため、各学年に「千字臨書」を課し「臨書力」が身につくように、各書体の講義を開設する。
- (3) 芸術としての「書道」の可能性も追求し、現代の書道を創造していくことができるよう「創作」の講義を開設する。
- (4) 書写検定試験の対策講座を時間割内で、教員採用試験・漢字検定試験の対策講座を時間割外で実施する。

2 教育内容・方法

- (1) 基礎・基本を徹底させるため、実技科目では合格制を取り入れて多くの課題を出し、理論科目では小テストを設定して、学修効果を高める。
- (2) 放課後および休祭日の作品制作だけではなく、夏期休暇には2泊3日の錬成会を実施し、行事への企画力・協調性ととともに制作時の集中力を養う。

- (3) 学内での「大作展」・「半切展」の表装では、学生同士の相互支援の中で進める協働学習を通してコミュニケーション能力を養うと共に技術の伝授を図る。
- (4) 毎年の国内研修旅行・隔年の中国研修旅行を実施して、見聞を広め書道関係の知識を深める。
- (5) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。
- (2) 卒業研究では、論文に加え卒論発表会でのプレゼンテーション能力も含めて総合的に評価する。
- (3) 卒業制作では3分野以上の幅広い作品制作ができ、しかも鍛錬度の高さを「創造性」を観点に評価する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、書道文化およびその継承・発展に深い関心を持ち、書写・書道教育の専門性を高め教育者になろうとすると共に社会に貢献しようとする人を求める。

文化創造学専攻 観光専修

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

観光専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 観光専修では、世界に通用するホスピタリティスキルを有する。
- 2 英語教員を目指す学生は、高度な専門性と英語によるコミュニケーション能力を身につけている。
- 3 観光専修の全学生は、在留外国人の雇用に必要な専門知識を有し、幅広い分野で活躍できる人材である。
- 4 観光専修の全学生は、明確なビジョンを持って問題を発見し、自ら解決に導く実践力を有する。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、特に、観光という視点と英語教育という視点から、専門科目、選択科目、資格取得に関する以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) 専門教育では、専門科目、選択科目、資格取得に関する科目の学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 学外実習科目を系統的に配置し、観光業または英語教育に関わる学生の実践力および課題解決能力の育成を図る。

2 教育内容の方法

- (1) 観光専修では、それぞれホテルマネジメントと旅行業務に精通した観光スペシャリストの育成及び外国人雇用に関する学修を通して、地方公務員や一般企業など幅広い分野で活躍できる人材を育成するカリキュラムを編成している。
- (2) 英語教育に興味を示す学生のために、国際社会で通用するグローバルな視野を持った英語教員を育成するカリキュラムを編成している。
- (3) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、通常授業の評価に加えて、実習時の成果、長期休暇中の課題の成果を総合的に考察して、学生の学修指導を行う。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、日本や世界の文化に興味を持ち、観光に関する専門的な知識を深め、また、英語のコミュニケーション能力を向上させ、観光産業や教育の世界で活躍したいという人材を求める。

- 1 国内外の旅行が好きで、その案内や企画を作ってみたいと希望する人
- 2 ホスピタリティスキルを身につけ、ホテルビジネスをはじめとする観光関連産業に将来携わりたい人
- 3 国際協力や国際支援に興味・関心があり、世界でグローバルな仕事に関わりたい人
- 4 専門性と英語によるコミュニケーション能力を備えた英語科教育を希望する人
- 5 観光、国際関係に興味があり、刻々と変わるこれらの業界の課題解決に取り組みたいと考えている人

デジタルアーカイブ専攻

◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 デジタルアーカイブに関する幅広い知識・技能を修得し、それらを活用して知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し文化を創造・発信する能力を有している。
- 2 資料をデジタルアーカイブ化する専門的知識と技能を修得し、デジタルアーキビスト、博物館学芸員、図書館司書の資格を取得できる力を身につけている。
- 3 文化を創造・発信するために、課題の発見と解決に取組み、常に新しい知識・技能の修得に努める強い意志を有している。

◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、文化に関する知識を身につけた上で、それらをデジタル化して記録・保存・管理し、知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し、文化を創造・発信する能力を持ち、知識集約型社会に貢献できる専門職を実践的に育むために、以下のカリキュラムを編成している。

1 教育課程の編成

- (1) デジタルアーカイブ能力の育成と、その能力を活かした企業、地方公共団体、図書館や博物館で活躍できる人材の育成を目指し、専門科目では、「文化の基礎分野」、「文化創造伝承分野」、「書誌アーカイブ分野」、「教材開発分野」の関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 演習科目として、「特別プロジェクト」、「図書館活動演習」、「博物館実習（デジタルミュージアム実習）」を配置し、学生の実践力の育成を図る。
- (3) デジタルアーカイブに関する論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業論文の作成を必修とする。

2 教育内容・方法

- (1) デジタルアーカイブ専攻では、デジタルアーカイブに必要とされる収集、保存・管理、発信、評価の各プロセスについて実践的に教育する。
- (2) デジタルアーカイブの各プロセスに必要な知識、技能の修得のため、専門基礎テキスト、資格取得ガイド等の教材や資料を提供し、課題に主体的に取り組む姿勢と問題解決力を育成する。
- (3) 演習科目では、学生参加型授業、グループ学修、フィールドワークを取り入れ、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。自分にはない他者からの新しい視点を取り入れ、省察する視点を重視する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、デジタルアーカイブ作品、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究の評価は、論文作成と口頭発表で行い、その結果と履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。

◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、文化や歴史に関する知識・技能を実践的に身につけ、課題解決に取り組み、社会に貢献したいという意欲のある人を求める。